

意識改革を徹底し

優勝だけを目指すチームを作る

中日ドラゴンズの第三三代監督に就任した与田剛氏（五十二歳）。六年連続Bクラスに低迷するチームに「三年ぶりに帰ってきた与田氏は就任会見で「優勝、それだけを目指して戦っていく」と明言。ドラフト会議では四球団が一位指名をした根尾昂選手を自らの手で引き寄せた。「運のいい男だな」と会見でも述べた与田氏に直撃インタビューした。（聞き手／中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆）

——古巣・中日ドラゴンズに監督として就任されました。外から見てドラゴンズはどう映っていましたか？

与田 率直なところ、「おとなしくなった」「元気がなくなつた」と評論家時代に感じていました。ここ三年は楽天でコーチをしていたので正直、見てないが、球界からそういう声は聞こえていたので心配していた。

——与田ドラゴンズが目指すも

のは？

与田 一番は選手の適材適所を明確にすること。希望ばかり言っても現実とのギャップはある。出ることを積み重ねていく。

二〇一九年二月一日のキャンプ開幕まで、選手に何ができて何ができないかを判断していく。

そしてその出来ることを、六月には二つ、八月には三つと徐々に増やしていけば、試合の中での選抜は広がり、我々も戦略が立て

やすくなる。出来ないことを望まず、何が出来るかをコーチらと見極めた上で、勝つために最大の事をグラウンドの中で見せていきます。

——目指すチーム改革、てこ入れは？

与田 意識改革は絶対に必要。就任会見でも言いましたが、優勝争いをしようと思つたら、セ・リーグはチャンピオンである広島の一強五弱の状態を冷静に受け止める必要がある、自身がカープに身を置いた場合、レギュラーになれるのか、と素直に考えてみる。優勝チームと互角以上に闘わないと優勝できない。その意識を植え付けたい。それが一番のテコ入れ。突然に技術が伸びることは難し

い。だが意識や習慣はすぐにも変えられる。朝起きてピッチングフォームを確認するなど、勝つために何をやるか、今までやってこなかったことをやる。これが意識改革。

ある本にありましたが、ボランテニアはしなきゃいけないと発想することはボランテニアではない。本気でやろうと思つたら本当にやる。意識が変われば必ず行動が変わる。そこから始まると思つています。

——二〇一八年のシーズンは、レギュラー定着したようですが、プラスの補強は？

与田 私の意向は球団に伝えてあります。あとはお任せするしかない。すべてを欲しがってもしよ